

安全な歩行と自転車乗りを ~安全教室を実際の生活にいかす~



安全教室
開会式

【交通安全教室「開会式」での学校長の話から】

警察署、交通安全教育支援センター、PTA社会部の皆様のご協力を得て、安全教室を行います。

屋代高校前駅から屋代中学校までの広い道が開通しました。学校前の大通りの歩道も広がってきています。安全な道路が増えましたが、まだ、

細い道もたくさんあります。また、新しい道ができると、新しい危険が生まれます。車のスピードが上がり、大きな事故となるからです。

今まで以上に気をつけ、交通事故にあわないよう、**自分で自分の命を守れるよう**に、今日の安全教室で真剣に練習してください。

1・2年【歩行訓練（学校～須々岐水神社）】

歩行：「飛び出さない」「歩道の縁石にのらない」

横断：合言葉は「とまる」「みる」「まつ」

緊張感をもって練習しました。一人ひとりが「道路の右端を歩くこと」「しっかりと安全確認をして道路を横断すること」を学びました。



1年

5年



3～6年【歩行訓練（校庭模擬道路）】

自転車：「体格に合ったもの」「点検」「ヘルメット」

5つの左：「左から乗る」「左足を地面につく」「左側通行」「左手からブレーキ」「左へ降りる」

自転車は相手を傷つけることもあり、道路交通法を守る重い責任があることを確認しましょう。

学習したことを実際の歩行・自転車乗りに生かしてください！

5・6支部の皆さんは10月3日（月）より屋代高校前駅～屋代中学校前交差点の新道路を通学路として登下校を始めました。



新通学路で登校

- ★ 松代街道の出入りは、屋代中前交差点の信号で横断。
- ★ 新道路は歩道のある側を通行（屋代高校前駅陸橋付近の横断歩道で横断）。
- ★ 通学路沿いのお宅や田畑にいたずらをしない。



親自身が精神的に大変な時期があり、一時は本当にどうなるかと思いました。自分ではどうすることもできないときもありました。心身ともに強くなる方法がありますか？

私たちは、心身ともに弱い存在で、だれでもが「悩み」「悲しみ」「苦しみ」ながら生きていくと考えてみたらどうでしょうか。健康に気を遣っても、病気になるように、強くなろうとしても、つらくてどうしようもない気持ちになることがあります。やっと目の前の霧が晴れたと思っても、次には雨降りの日が待っています。弱い自分を責めて苦しむよりも、それを受け入れ、「**今の自分でいい**」と考えるだけで、少し楽になるときもあると思います。



人生を旅にたとえることがよくあります。歩けば歩くほど疲れて苦しいように、生きれば生きるほど、苦しみも多くやってきます。それでも苦しさに耐えて歩くことができるのは、歩くべき道があり、目的の場所があるからです。

目標がまだまだ遠く、行く道が険しく思えるときは、その場に腰を下ろし、「こんなに弱い自分が、よくここまで歩いてきたものだ」と来た道をふり返ることもよいのではないのでしょうか。**一度だけしか歩けないこの道を自分なりにがんばって歩いてきたことは、すばらしいこと**です。

明日のことはわからない。しかし、明日のことを予測し、確かに明日はこうなるだろうと信じて、私たちは生きています。だから、そうはならなかったとき、つらい気持ちになります。つらいことが多い中で、ちょっとした“いいこと”があるから、いつときでも「喜び」「安心」「希望」を感じます。

精神科医V・E・フランクは、著書「それでも人生にイエスと言う」(春秋社)の中で、ナチス強制収容所での経験をもとに次のように語っています。

「しあわせは目標ではなく、結果にすぎない」

「生きるということは、たったひとつの重大な責務である」

「私は人生に何を期待できるかではなく、

人生は私に何を期待しているかを問うだけである」と。



憂うつな気持ちで生きている人が、まちがいなく増えています。それは、現代社会に生きる私たちの宿命です。心療内科等を受診し、専門的な治療を受けることも、よいことかと思えます。

